



コールセンターからの小さなよみもの



2019年11月29日

Vol
130

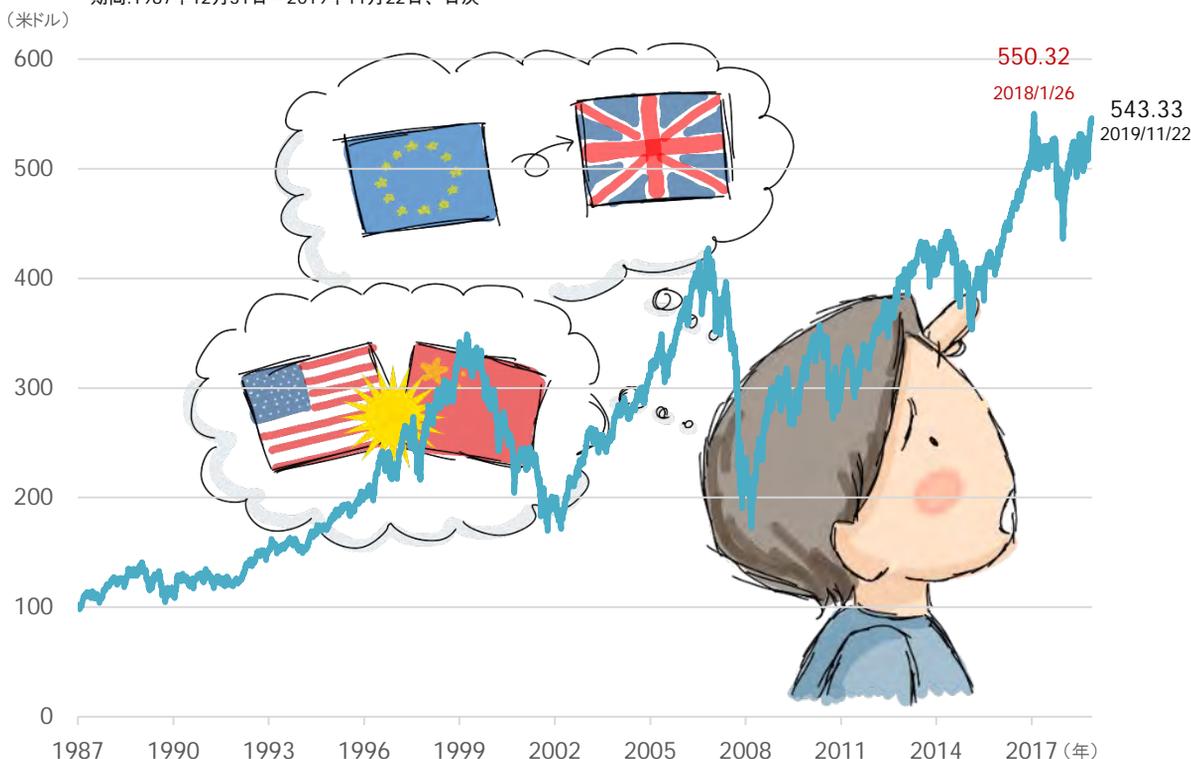
最高値が見えてきた世界株。 「一旦売り」が正解？

世界の株価が最高値に迫っています。世界の株式市場の値動きを示す「MSCI 全世界株価指数」は、昨年1月26日の最高値まであと約1%の水準*1です。いくつかの国の株価指数のなかには、すでに最高値を更新したものもあるようです。連日報道されている“米中貿易摩擦”や“ブレグジット(英国のEU離脱協議)”といったネガティブなニュースとのギャップに戸惑う方も少なくないのではないのでしょうか。コールセンターにも、「なぜ、株価が上がっているのか」「一旦、利益確定をした方が良いのではないか」というお問い合わせが多く寄せられています。

*12019年11月22日時点、米ドルベース

世界株式*2の値動き

期間:1987年12月31日～2019年11月22日、日次



出所:信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成
※データは過去のものであり将来の運用成果などを約束するものではありません。

*2世界株式:「MSCI ACWI Index」。同指数は、世界49か国(先進国23か国・新興国26か国)の大型株と中型株で構成されたインデックス。2,853銘柄で構成されており、世界の株式市場の約85%をカバーしています。(2019年10月末時点)

当資料は、日興アセットマネジメントが投資信託の仕組みについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

日興AMファンドアカデミー

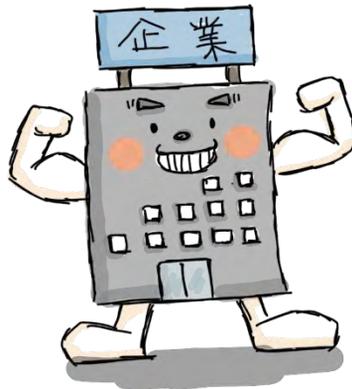


コールセンターからの小さなよみもの

株価は、『企業の実力』×『市場の期待値』に分解できる

株価は、「EPS(一株当たりの利益)」と「PER(株価収益率)」の掛け算で求められます。EPSを『企業の実力』、PERを『市場の期待値』と置き換えると理解しやすいかもしれません。

<p>株価</p> <p>時価総額 発行済み株式数</p>	=	<p>EPS</p> <p>一株当たりの利益</p> <p>当期純利益 発行済み株式数</p>	×	<p>PER</p> <p>株価収益率</p> <p>時価総額 当期純利益</p>
--	---	--	---	--



企業の実力



市場の期待値

日興AMファンドアカデミー

当資料は、日興アセットマネジメントが投資信託の仕組みについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



やはり、「一旦売り」が正解？

2019年を切り取ってみると、『企業の実力(EPS)』は減少しています。“米中貿易摩擦”や“ブレグジット”などが『企業の実力』に影響を及ぼしていると考えられます。一方で、『市場の期待値(PER)』は上昇しています。最高値が見えてきた世界の株価は、足もとでは『市場の期待値』がけん引しているようです。やはり、「一旦売り」が正解なのでしょうか？

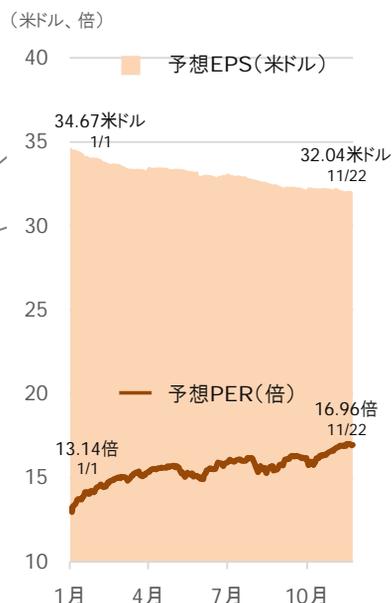
世界株式*1と予想EPSと予想PERの動き

期間:2001年5月7日～2019年11月22日、日次



うち、2019年

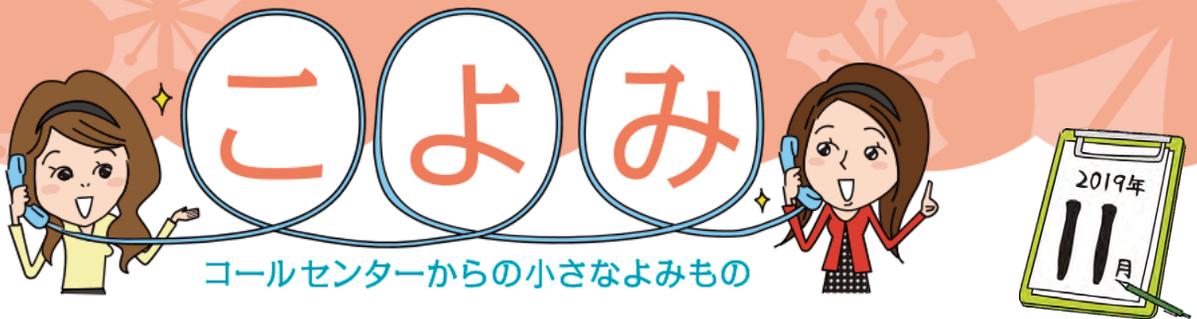
期間:2019年1月1日～2019年11月22日、日次



※データ取得の関係上、前ページと期間が異なります。

出所:信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成
※データは過去のものであり将来の運用成果などを約束するものではありません。

*1世界株式:「MSCI ACWI Index」。同指数は、世界49か国(先進国23か国,新興国26か国)の大型株と中型株で構成されたインデックス。2,853銘柄で構成されており、世界の株式市場の約85%をカバーしています。(2019年10月末時点)



改めて認識したい、THINK BIG。

しかし、このグラフを見て気付きたいことが3つあります。

1つめは、俯瞰してみると、現在の『市場の期待値(PER)』は極端に高いというわけではないということです。たとえば、この期間の平均である15.33倍に比べ、足もとは16.96倍。市場や環境によって異なりますが、一般的にPERが20倍を超えると割高と考える投資家が多いようです。

2つめは、俯瞰してみると、株価は上昇しているということです。たとえば、2001年5月7日の274米ドルは、2019年11月22日に543米ドルと約**2倍**になっています。この期間には、“米中貿易摩擦”や“ブレグジット”はもちろん、“欧州債務危機”、“リーマン・ショック”といったさまざまなイベントも含まれています。これらに一喜一憂せず、腰を据えて市場に居続けることができた人が、上昇の恩恵を享受することができました。

3つめは、俯瞰してみると、『企業の実力(EPS)』は増加しているということです。たとえば、2001年5月7日に12.22米ドルだった『企業の実力』は、2019年11月22日に32.04米ドルと約**2.6倍**になっています。株価の上昇以上に、『企業の実力』が増加していることはぜひとも認識しておきたいものです。

大切なことは、俯瞰して市場を見ること。つまり、大きく考え、大きく構え、どっしりと市場に居続けることではないでしょうか。

—これが日興アセットがお伝えしたい「THINK BIG」という考え方です。

nikko am

2 コールセンター
0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

